

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503692		
法人名	有限会社マネジメントコンサルタント		
事業所名	エンゼルホーム北野		
所在地	北海道札幌市清田区北野4条4丁目25-10		
自己評価作成日	平成26年11月10日	評価結果市町村受理日	平成27年2月5日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念のその人らしい笑顔あふれる自由と安らぎの感じられる暮らしを日々実現するため支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani%u%ae&amp;JigvosyoCd=0170503692-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani%u%ae&amp;JigvosyoCd=0170503692-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成27年1月15日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清田区の閑静な住宅地に建つ、2階建て2ユニットの事業所で、西向きの窓からは札幌の街並みや、はるか遠く山々が見渡せ景観に恵まれている。近くには、小・中・高校・公園・大型スーパー・コンビニ等がある。利用者の経験や知識が発揮できるように、事業所の菜園では、多くの果物や野菜を植え、利用者が自然に外気浴ができる機会や、手入れや収穫を喜ぶことができるように支援している。職員休憩室の壁には、全職員で作上げた運営理念と虐待防止理念、防災マニュアルや避難場所などを掲示し、日頃から視覚を通じ意識するようにしている。管理者及び職員は、地域住民にも参加の呼びかけをして、グループホーム管理者連絡会主宰である、【徘徊・見守りSOSネットワーク、清田区・北野地区・徘徊高齢者等模擬捜索訓練】に参加し、その対応等を『模擬訓練』で学び、運営推進会議で報告をしている。毎日の出来事や、利用者の様子を書き込む複写式の介護記録は、1部を家族に送付しホームでの暮らしぶりが分かる様に配慮している。恵まれた住環境の中で、利用者をやさしく支え、自由な生活を実践しているアットホームな事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者本位の介護の在り方を唱えた新しい理念を職員の意見を集約して作り上げ実践へつなげています。	家庭的な環境の下に、職員は利用者を専門知識と豊かな技術で支え、運営理念である『最後まで「ともに歩み」「ともに生きて」行きます』を、共有し実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に理解してもらえる様に、清掃活動、お祭り、あいさつ等に心掛けている。	事業所が地域に定着し、町内会の支援を得ながら清掃活動や祭りに参加して、地域の一員として交流をはかっている。読み聞かせ・日本舞踊・大正琴等のボランティア訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事、見学会、介護相談等を通して交流を深めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	町内会、民生委員、家族代表、包括センター等参加、活動状況等2か月に一回行っている。	家族・町内会役員・地域包括支援センター職員等が参加し、定期的開催している。事業所の取り組み・行事報告・災害時対応等について話し合い、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の心身の状態を個人別記録、日常の行事をエンゼル通信にて発信し家族の安心をいただいている。	市や区のグループホーム協議会や管理者連絡会などに参加し、行政方針の理解に努めており、常に利用者本意のケアサービスに取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念にもかかわらず職員全員で理解している。夜間は、防犯上施錠している。	指定基準を具体的に確認して、基本的なケアの実践に活かすよう職員相互の共有をはかり、利用者の安心と安全の遵守に努めており、虐待防止の理念も掲示している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待が、見過ごされることのない様に注意して防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ないが、介護新聞ニュースなどで情報を取り入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、利用者様御家族様と十分に納得出来る話し合い、説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、要望をくみ取り意見箱を設置して、聞き入れ質の向上に取り組む。	玄関に意見箱を設置している。来所時の会話の中から、希望や要望をくみ取り家族の思いを、運営に反映するようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度又状況に応じて意見出し合い、向上心を持ち、日々取り組んでいる。	管理者は日常の業務を通じ、積極的に職員の意見等を聞き、運営に反映している。さらに充実したケアサービスを提供するために、業務の流れに沿った申し送りを、行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	柔軟に取り組める環境を作り、無理のない勤務条件にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の向上のため、講習、研修を取り入れ参加を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部との交流を積極的に持ちサービスの提供に生かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の求めていること、不安な事を話しの中で、理解し安心できる生活に取り組む。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様が求めることを聞き入れ、信頼出来る関係作り心掛ける。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	往診、訪問理美容等、本人の希望も取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならない様に、体調、行動を把握して、安心して生活できる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の様子を、細かく伝え情報の共有に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の思い、お話を聞き、電話、手紙、外出等、家族共有の上支援している。	日本古来の風習や生活習慣を大切に、節分・雛祭り・七夕等の行事を楽しみ、また家族や友人との関係が、途切れることがないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	物作り、行事参加、居室へ自由に出入り出来る楽しみ、孤立しない様な取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、不安、心配を聞き入れ、他の機関への協力もお願いしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での会話、行動を把握して困難な場合は、家族の協力をいただき利用者本位に沿って検討している。	利用者の担当職員が決まっており、日常会話や様子から、本人の思いや希望をくみ取り、希望に沿った支援が行われるように本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に協力していただき今までのサービス利用、ご利用者様からもお話を聞き、把握出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、体調、心身の変化等職員間で申し送りを行い、情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度、全員で話し合い、情報交換。必要に応じてその都度、計画見直しご家族様の意見等も聞き入れ作成する。	身体の変化や本人・家族の要望を聞き、今一番必要としている事をケアプランに反映している。医師や看護師と意見交換を行い、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録を詳細に記入し、御家族様に知って頂く。職員の意見交換、見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、御家族様の要望に応じ、受診、買い物、訪問理美容、ボランティア等受け入れ、ホームとして出来る限り支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者が、安心して過ごせる様に警察、消防、民生委員、町内会長、区担当の方々と意見交換の場を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間連絡体制の協力、医療機関の定期検診、訪問看護師による健康管理を支援しています。	協力病院医師は、毎日のように訪問診療に訪れている。利用者が希望するかかりつけ医への通院支援も行ない、一人ひとりが、病状に合った適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医、看護師に報告、相談ができる体制が、整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入、退院時、ソーシャルワーカーと密に連絡取り、話し合い、ご利用者様が、安心して療養出来る様支援行い、情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これまで看取りに近い事例あり、急変時には、関係者と情報共有する体制を整え、職員のさらなる向上を目指しています。	重度化や終末期の指針を策定し、事業所ができることを説明している。医療機関とは24時間連絡が付き、医師や看護師の助言を受けながら、チームとして取り組んでおり、看取りの経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行えていないが、マニュアルは、完備して話し合っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練、外部研修に参加して安全に避難できる取組をおこなっている。	利用者参加で年2回火災の避難訓練を実施している。火災通報装置やスプリンクラーが設置されており、緊急連絡網も整備されている。	火災以外の台風・地震・水害など、今後起こりうる自然災害に対応できるような防災訓練の実施と、緊急用の備品を入れた非常持ち出し袋の準備。ポータブルストーブ等の、災害時備蓄品を会議で検討することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を尊重して、排泄、入浴時の羞恥心への配慮に十分注意払い、個人情報の書類等適切に管理しています。	尊厳を大切にし、プライドを傷つける事がないよう配慮しながら支援している。個人情報に関する書類は、鍵のかかる棚で適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い、希望を聞き入れ出来ること思い出すよう対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての一日の予定に合わず事ではなく、意向を把握し、起床、食事、入浴、レクリエーション、外出等、希望に沿える支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的に整髪、身だしなみはさりげない声掛けで、お手伝い行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話から把握した御利用者の好み、旬の食材、昔ながらの料理、自家菜園での収穫物を献立に取り入れ提供。御利用者様は、食事の作業を担っています。	利用者と共に、調理・配膳・後片付け等を行い、職員も同じ食卓で、会話を楽しみながら食事をしている。畑で収穫した新鮮野菜も食卓にのぼり好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、食事形態に配慮した食事提供。一人ひとりの水分量も表で確認して、一日の過、不足の対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回口腔ケアをして頂き、できない方は、介助で行い歯科による口腔指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄を時間で誘導、声掛け。日中は、オムツをせずトイレで排泄の習慣を出来る支援を行っている。	一人ひとりの心身の状況や、サインを見逃さないように、尊厳に配慮したトイレ誘導をしている。車いす対応のトイレは、使いやすく整備され清潔である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食べ物、体操、体を動かす事の心掛け。お腹を温め、マッサージも自らしていただく。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を設け入浴者の意向を尊重し、心身の状態でシャワー、足浴で対応。重度の方も浴槽に入って頂き清潔をたもっています。	個々の希望や、生活習慣に応じて支援している。入浴を拒否傾向の利用者には、声かけ・時間帯の変更・足浴・清拭など工夫した支援を行っており、清潔保持に心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握して安眠出来る様心掛け、眠れない時はお話、温かい飲み物提供。解消の工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容を把握して、誤薬のないように2重にチェック仕合、確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に合わせ強制的にならない様に、調理、清掃、配膳のかたづけ等出来る事の自信を持って頂く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩、日光浴、体調に合わせた支援。食事等で家族と一緒に外出、外泊も協力。	日常的に散歩や買い物に出掛けている。自然に屋外へ出掛けられるように、外出行事が年間計画の中に多数盛り込まれている。広い庭には花畑や菜園があり、利用者が気楽に屋外に出られるように配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望によって所持したり買い物したりする楽しみを持って頂く。又ホーム側で管理して、その都度、希望の品を購入して頂く支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話、お手紙のやり取り出来る支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関先、ベンチ等時々に合わせて、ゆっくりしたペースで過ごせる空間、季節事の飾りつけ等の工夫の演出をしている。	リビングは、利用者の手芸作品が飾られ、温度・湿度に気を配り、エアコン完備の快適な居住空間である。玄関前にはベンチとテーブルが置かれ、日光浴や暖かい日のお茶会に利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで談話、音楽を聴いたり他の部屋へ訪問をしたり、くつろげる場所を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、今まで慣れ親しんだ物の利用をお願いしている。清潔を心掛け気持ちよく生活出来る様努めている。	居室入口には、温かみのある表札が掛かっており、室内は利用者が自宅で使っていた昔馴染みの家具・家族写真・生活用品等を置き、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札、目印を付け混乱を防ぎ自立して暮らせるよう工夫している。		